

漁海況月報

平成28年4月14日

愛知県水産試験場 漁業生産研究所

1 海況予測

(1) 現況

○ 黒潮流路

4月11日の人工衛星画像によると、黒潮は潮岬で接岸したあと、八丈島付近を通過して北上し、房総半島沖を東に流れています。

○ 渥美外海の状況

渥美外海沖に冷水渦があり、御前崎沖～浜名湖沿岸にかけて、17℃台の暖水が緩やかに波及しています。

(2) 予想

黒潮の流路は、潮岬以西に目立った蛇行はないことから大きな変化はなく、4月中は八丈島の南を迂回するC型で推移し、御前崎沖から渥美外海沖にかけて弱く暖水が流入する傾向は継続すると推測されます。

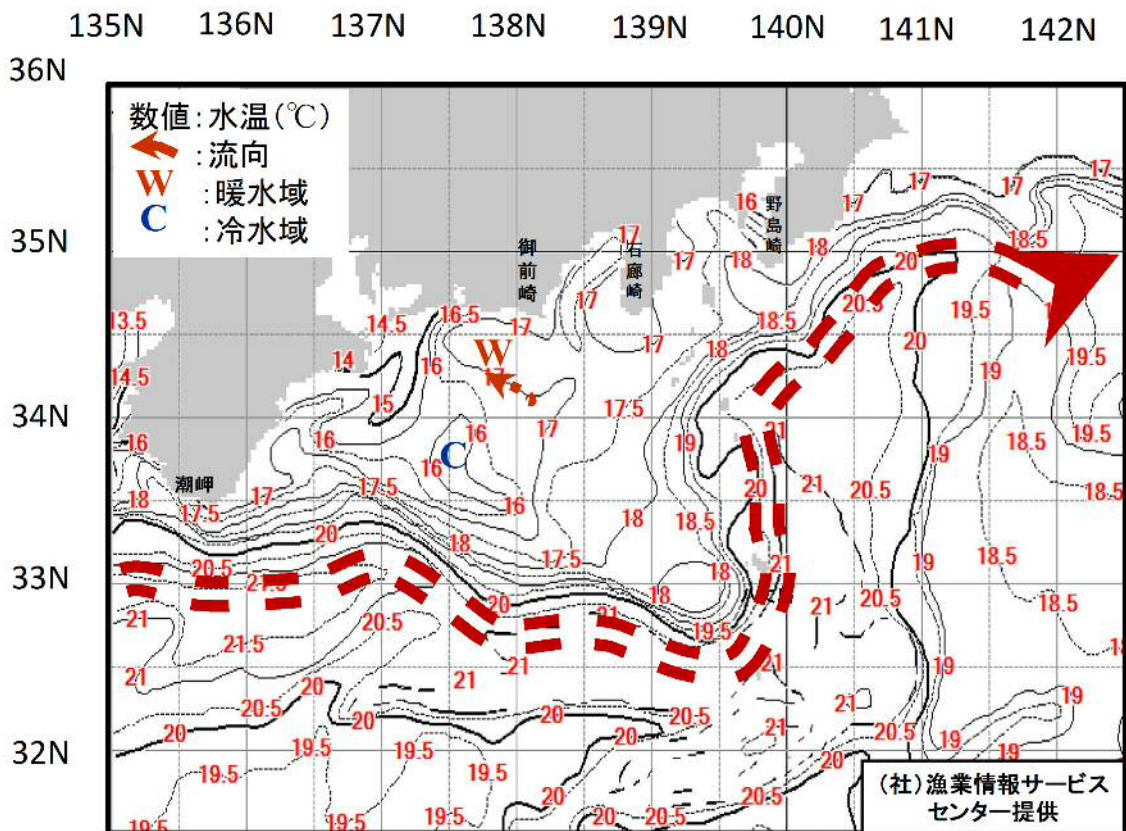


図1 海況の現況[2016年4月11日]

1 シラス

2016年3月は渥美外海で約94トンの漁獲があり、3月としては例年のない漁獲量となりました。これは、この時期に遠州灘方面からの暖水波及が断続的に発生していた(図2)ことから、黒潮内側域のシラスが渥美外海へ運ばれ、漁場が形成されたものと考えられます。

4月に入っても渥美外海への暖水波及は継続しており(図3)、渥美外海では断続的に漁場が形成されています。

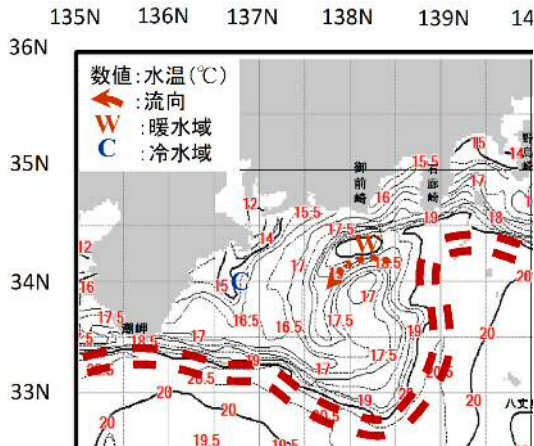


図2 平成28年3月28日の黒潮流路

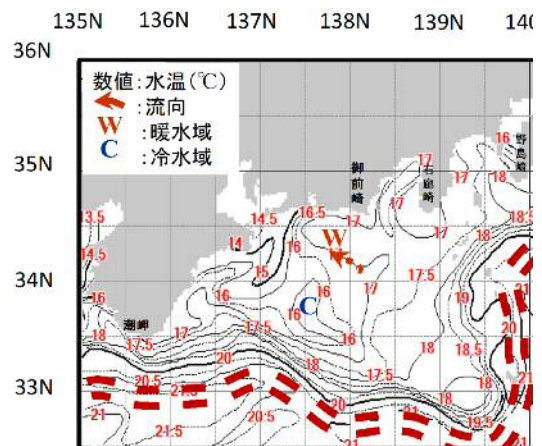


図3 平成28年4月11日の黒潮流路

表1 愛知県シラス漁獲量

(トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2011	1	0	0	169	583	1,168	1,219	517	677	547	478	279	5,637
2012	9	0	0	110	444	832	1,383	1,167	679	1,142	496	181	6,443
2013	4	0	0	723	1,667	374	250	295	1,248	322	353	127	5,363
2014	0	0	0	594	2,828	527	18	891	672	1,400	592	236	7,758
2015	0	0	6	980	3,255	1,466	40	166	164	1,002	1,876	781	9,736
2016	11	0	94	197									302
10年平均	2	0	7	419	1,585	1,061	610	562	542	737	555	223	6,305

*2016年4月の漁獲量は、4月12日現在

4月の黒潮流路は、シラスの来遊がある程度期待されるC型で推移すると予測されています。

しかし、3月25日に発表された水産研究センターの予報文では、沖合を回遊しているカタクチイワシの2015年級群は2014年級群と同様低水準とされており、沖合を回遊している魚群からの産卵は期待できない状況となっています。また、3月の海幸丸による外海調査でも、カタクチイワシ卵の採集数は低調で、紀伊水道外域のシラスの漁獲量も4月上旬は増加していません。

このため、この時期の漁獲はそれほど多くなく、例年並みになると考えられます。

2 カタクチイワシ

2016年3月は外海で約14トンの漁獲がありました。操業は1日のみであったことから、魚群の来遊はごく短期間であったものと考えられます。

4月に入ってからの操業はありません。

表2 愛知県カタクチイワシ漁獲量 (トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2011	37	92	116	561	768	1,945	3,610	4,935	572	159	294	401	13,491
2012	46	0	0	260	1,471	1,792	1,824	3,704	2,197	483	851	354	12,983
2013	0	0	0	0	803	2,680	4,794	5,382	2,382	1,082	2,811	1,768	21,702
2014	446	0	0	655	269	2,864	5,389	3,742	3,009	2,609	1,971	703	21,657
2015	231	226	0	131	0	286	4,707	2,888	2,900	665	1,223	361	13,617
2016	85	0	14										100
10年平均	84	48	12	226	736	1,826	4,107	4,147	2,596	1,505	1,330	739	17,357

カタクチイワシの2015年級群は2014年級群と同様低水準とされており、4月上旬の熊野灘における中型まき網のカタクチイワシ漁獲量はまとまった漁がありませんでした。このため、沖合を回遊している1歳以上の大型群の来遊は期待できない状況となっています。

一方、渥美外海底びき網等の情報ではカエリサイズの魚群が散見されていること、4月10日のシラス漁獲物の体長組成(図4)では4cm程度の個体が一定程度混じっていたことから、沿岸域の資源量は前年並みにあると考えられます。

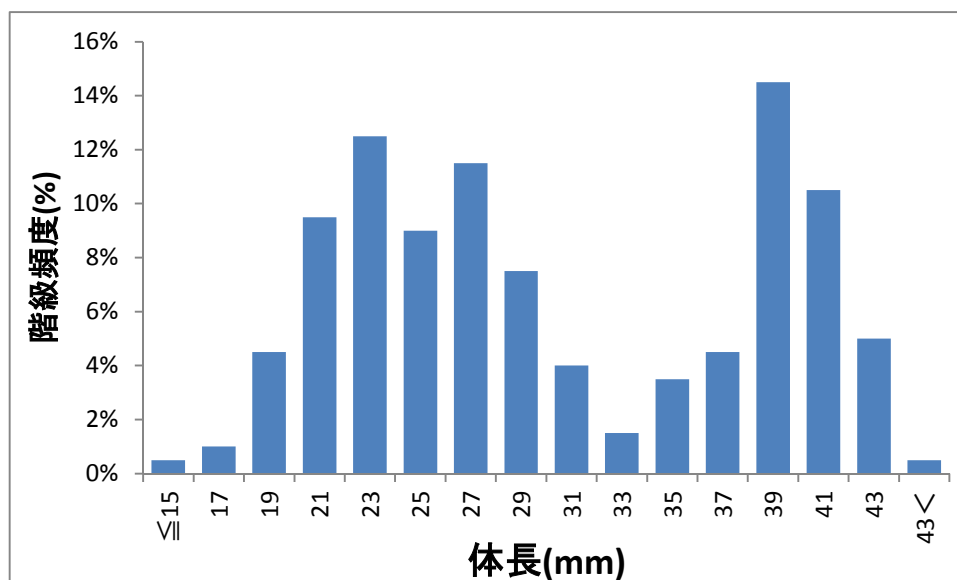


図4 カタクチシラス体長組成(4月10日)

3 マイワシ

2016年3月はカタクチイワシに混じる形でごくわずかな漁獲があったのみです。4月に入ってからの操業はありません。

表3 愛知県マイワシ漁獲量

(トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2011	0	0	1	0	2	29	361	1,223	1,091	264	68	4	3,044
2012	0	0	0	0	0	72	49	499	214	52	0	0	886
2013	0	0	0	0	1	8	107	577	295	3	0	0	992
2014	0	0	0	<1	0	104	269	1,547	1,334	617	422	180	4,474
2015	76	78	0	0	0	4	1,010	2,100	3,184	2,684	1,413	574	11,123
2016	74	0	0										74
10年平均	8	9	0	0	1	29	255	757	736	432	212	81	2,519

マイワシの2015年級群は、産卵量では2014年級群には及ばなかったものの、資源水準はここ数年では非常に高いとされています。また、熊野灘における中型まき網のマイワシの漁獲量は2015年12月以降高水準となっています。

近年の傾向として、これらの沖合群は本県へ来遊することは少なく、今年も夏以降に0歳魚主体の漁獲となると予測されます。

シラスへのマシラス混入率は、昨年の4月は40%程度、今年の4月上旬は約21%となっており(図5)、今年も夏以降の漁獲が期待されます。

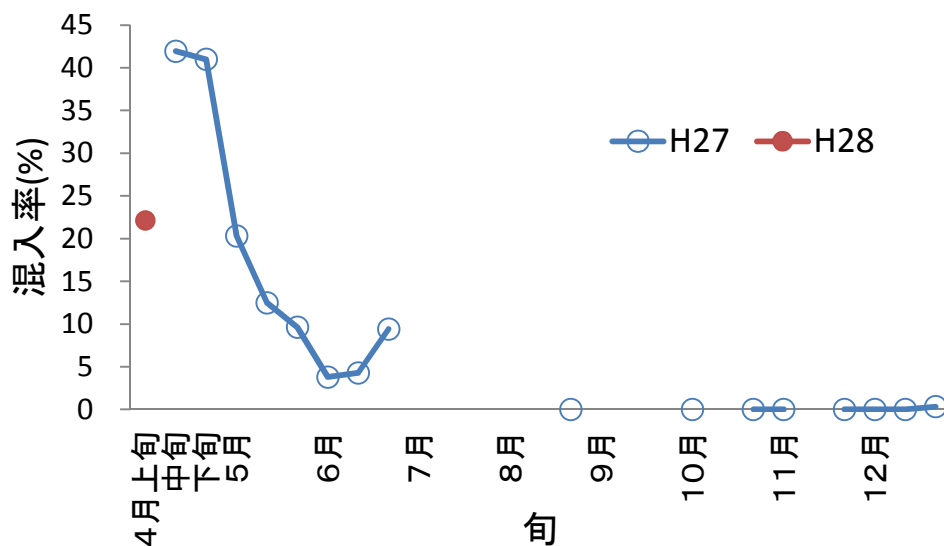


図4 マシラス混入率